

# 大学生におけるアトピー性皮膚炎の実態

長崎大学保健管理センター 前田 真由美  
 大坪 敬子 鷺池 トミ子  
 中田 恵輔 石井 伸子  
 長崎大学医学部皮膚科 田中 洋一 阿南 貞雄

## I. はじめに

室内環境等の変化により、アトピー性皮膚炎 (atopic dermatitis:AD) が増加して来ている。従来ADは、幼少期に発症し、そのほとんどは思春期に治ると言われていたが、最近では、高学年での発症例や大人になっても治らない例、再発する例等が増加している。そこで今回大学生 (青年期) におけるADの実態を把握する為に、健康診断にAD検診を取り入れ、アレルギー疾患のアンケート調査の結果と比較検討したので報告する。

## II. 対象及び方法

対象：平成7年度新入生1,666名  
 (男1,008, 女658)

- 方法：1. アレルギー疾患のアンケート調査  
 2. 皮膚科医診察 (AD重症度判定)  
 3. ADと診断された学生に対して
- ・経過についての追加アンケート調査
  - ・特異的IgE抗体(IgE-RAST値)測定
  - ・パッチテスト

アレルギー疾患のアンケート調査票は、「学生の健康白書 1995」の調査票を使用した。また重症度判定にはCostaの重症度分類 (表1) を使用し、各項目ごとに点数化し、各合

表1 アトピー性皮膚炎重症度

皮疹の程度	0	皮疹なし	皮疹の範囲	0	皮疹なし
	1, 2	軽症		1	1 / 3 未満
	3, 4	中等度		2	2 / 3 未満
	5, 6	重症		3	2 / 3 以上

症 状	点 数
Erythema	
Edema	
Vesicle	
Crusts	
Excoriations	
Scales	
Lichenifications	
Pigmentation/depi	
Pruritus	
Loss of sleep	
Total I	

部 位	点 数
足背・足底	
大腿・下腿	
膝関節屈側	
手背・手掌	
臀部	
上肢・肘関節屈側	
背部	
胸腹部	
顔面・前頸部	
頭部・後頸部	
Total II	

Total Score (Total I + Total II)

表2 アトピー性皮膚炎検診結果

	対象者	受検者	AD罹患者	初めてADと認識した者	軽症 24以下	中等度 25~49
男	1,008	996	42 (4.2)	3	38 (90.5)	4 (9.5)
女	658	655	40 (6.1)	8	36 (90.0)	4 (10.0)
計	1,666	1,651	82 (5.0)	11	74 (90.2)	8 (9.8)

(%)

表4 アレルギー症状の既往

	A:AD既往者 (n=197)	B:AD既往なし (n=1447)
発作性でくり返す咳	6.1%	2.1%
発作性でくり返す呼吸困難	5.1	1.7
鼻炎, 結膜炎 (季節性)	21.3	14.7
鼻炎, 結膜炎 (季節無関係)	28.4	14.3
薬物アレルギー	2.0	1.7
食物アレルギー	8.6	2.6
その他	1.5	1.4
何らかのアレルギー症状を有する者	45.2	30.0

計の Total が24点以下を軽症, 25~49点を中等度, 50点以上を重症とした。また IgE-RAST 値は score 2 以上を陽性とした。

### III. 結果及び考察

検診受検者は, 1,651名 (男996, 女655) 受検率99.1%で, うちADと診断された者は82名(5%), 重症度は軽症74名, 中等度8名であった。82名中11名はアンケート上既往なしと答えており今回初めてADと診断されている。そしてこのような学生は, スコア15点以下の軽症で追加アンケート調査の結果, 以前より症状は認められていた。

アンケート調査の結果 (表3) AD既往者は, 197名 (12%) であったが, この一年以内に症状を認めた者は6%で診察上のAD罹患率とほぼ一致した。しかしADと診断された者の中で8名は一年以上前にありと回答している。これはスコアが軽症であった結果から

表3 アンケート結果

	回答者	ADが一年以内にあり		ADが一年以上前にあり	
		診察上 AD(+)	診察上 AD(-)	診察上 AD(+)	診察上 AD(-)
男	994	35	21	4	52
女	650	28	14	4	39
計	1,644	63	35	8	91
		98(6.0)		99(6.0)	

(%)

表5 家族歴

	A:AD既往者 (n=197)	B:AD既往なし (n=1447)
気管支喘息	6.1%	4.8%
アレルギー性鼻炎	19.3	11.7
アトピー性皮膚炎	22.8	7.5
薬物アレルギー	3.0	1.8
食物アレルギー	3.6	1.6
その他	1.0	0.7
何らかのアレルギー疾患	36.0	22.3

みて本人があまり気にしてなかった為と思われる。

表4に示すようにAD以外に何らかのアレルギー症状を有する者はAD既往者A群では45.2%, 既往なしB群では30%であった。両群とも鼻炎, 結膜炎等の気道アレルギー症状が多く, A群はB群の2倍であった。その他の症状においてもA群が多かった。

家族歴 (表5) に何らかのアレルギー疾患を有する者は, A群では36%, B群では22.3%で, ADの家族歴を有する者はA群では22.8%に認められ, B群7.5%の3倍であった。これはADがアトピー素因という遺伝的因子を背景に発症する為と考えられる。他の疾患も1.5~2倍A群がB群に比べて多かった。

ADと診断された学生82名の発症年齢 (図1) は, 乳幼児期43.8%, 小学生33.3%, 中学生14.6%, 高校生8.3%であり, 13歳以後の

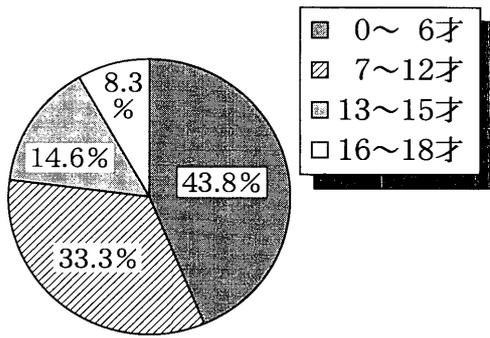


図1 診察にてADと診断された者の発症年齢 (n=82)

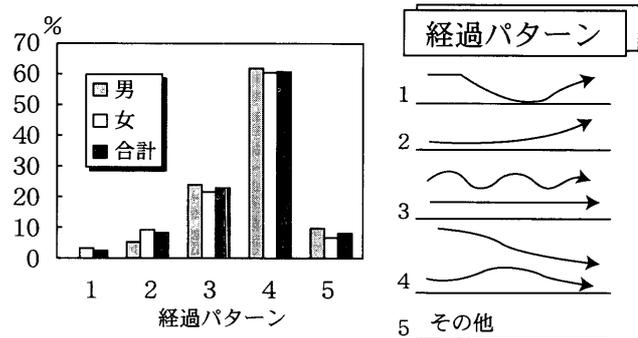


図2 発症から現在に至るまでの病状経過 (n=82)

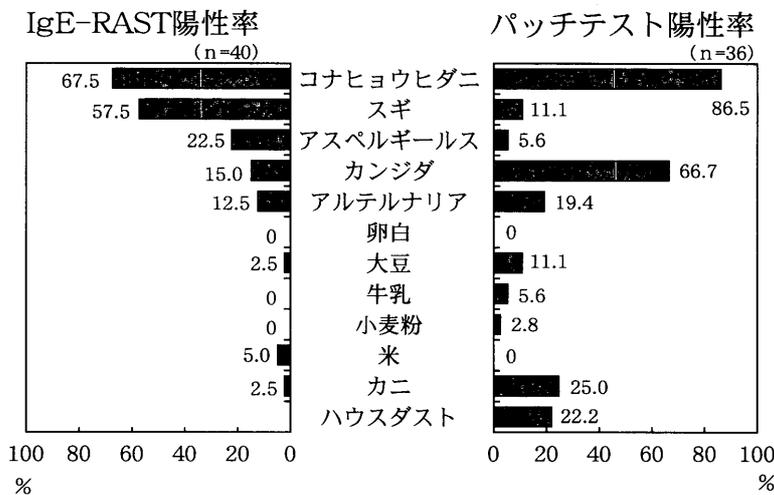


図3 IgE-RAST 及びパッチテストの結果

発症が22.9%見られた。また発症から現在に至るまでの病状経過 (図2) については、男女間に差はなく憎悪傾向を示すパターン1, 2はそれぞれ1.9%, 7.4%, 変動又は不変のパターン3は22.2%, 軽快傾向のパターン4は61.1%, その他5は7.4%であった。ADは年齢と共に大半は治癒して行くが憎悪傾向の者が約1割にみられ、変動又は不変の者が約2割であった。

免疫学的背景について現在の段階ではI型とIV型アレルギーが何らかの形で関与しているといわれている。原因アレルゲンを決定する為にIgE-RAST値測定, パッチテストを行った。82名中40名が検査に応じ, 検査の結果(図3), IgE-RAST陽性率は, コナヒョウヒダニが67.5%と最も高く, スギ57.5%, カ

ンジダ15%の順であった。アンケート上A群でこれまでにアレルゲン検査を受けたことがある学生は, 55名(27.9%)でハウスダスト, ダニ, スギが多く今回の検査とほぼ同様の結果であった。パッチテストの結果, コナヒョウヒダニはRASTと同様86.5%と高率であったが, スギの陽性率は11.1%と低く, 逆にカンジダは66.7%と高率で, IgE-RAST陽性率と一致しなかった。スギIgE-RASTで高い陽性率がみられたが, これは40名中27名(67.5%)の者が喘息またはアレルギー性鼻炎を合併していた為と考えられる。食物については, IgE-RAST陽性率は低く, パッチテストにおいてもカニ(25%)を除いて低率であった。

#### IV. まとめ

1. 皮膚科医による検診の結果、新入生のAD陽性者は5%、アンケート上一年以内のAD既往は6%であった。
2. AD既往群では喘息、鼻炎、結膜炎や食物アレルギーを有する者が、既往なし群より高率であった。
3. AD既往群では家族歴にADを有する者が22.8%あり、既往なし群の3倍にみられた。
4. ADと診断された学生のうち約2割が、13歳からの発症であり、また約1割が憎悪傾向を示した。
5. パッチテストの結果アレルゲンはダニ、カンジダが多かった。

ADを有する学生に対して、事後指導として医師による説明とパンフレット配布を行った。今回の調査では軽症例が多く、積極的に対応しようとする学生は少なかったが、入学後の環境変化により悪化することも考えられ、生活指導のあり方は今後の検討課題である。

#### 参 考 文 献

1. 滝川雅浩：アトピー性皮膚炎，最新医学49巻臨時増刊号，40-55，1994. 3
2. 棟方充他：遺伝とアレルギー性疾患，最新医学49巻臨時増刊号，233-241，1994. 3
3. 鳥居新平：アトピー性皮膚炎，看護MOOK No.36，58-63，1990
4. 飯倉洋治：アトピー性皮膚炎 原因となる室内環境，NHK きょうの健康，70-73，1993. 8
5. 中川武正：アレルギー 起こしやすい生活環境，NHK きょうの健康，16-19，1993. 12
6. 片平敬子他：アトピー性皮膚炎患者（女子大学生）実態とケアの必要性，第31回全国大学保健管理研究集会報告書，449-452，1995
7. 中村恵子他：大学生におけるアレルギー像，第31回全国大学保健管理研究集会報告書，252-257，1993
8. 戸田安士他：大学新入生に対するアレルギー性疾患調査研究-附属中学・高校との比較-，第31回全国大学保健管理研究集会報告書，258-261，1993
9. 伊奈慎介他：成人型アトピー性皮膚炎の憎悪因子について-アンケート調査の結果から-，青県病誌 第40巻，87-92，1995

(本論文の要旨は第34回全国大学保健管理研究集会で発表した。)